FIKO NEWS FLASH

No.11. December 1949

栄光学園中学校新聞部

横須賀市田浦町船越

グランド工事

ぼく達係りの者業部長である浅倉さんの所へ、グランド工事について伺った。僕達が入って行くと浅倉さんはにこ〳〵して「やあ、どんな話しかね。まあお掛けなさい。」と椅子をすすめられた。僕達の固い気持はすぐに消えうせその場の雰囲気はなごやかになった。浅倉さんの話しによると、十三日迄には追加の分まで全部完成するそうである。又今のテニスコートになっている所は、現在修理中の所と、やり方がちがうので集向した処、

「あれは加熱混合式と云って大鍋でアスファルト、バラス、砂等をまぜ合せて加熱して固める方法であり大変大丈夫なのです今やっているのはアスファルト乳材鋪装といって乳材はエロゾ一を使っています。そしてこれは加熱混合式よりは弱い。しかしここは重量運搬をしないからやすい方を用いたわけです。」

毎と専門的な事までお話し下さった。又進行過程については、

「今までの進行過程は極く悪く計画の四十パーセントは天候のためにロストされましたよ」とおっしゃっていた。初めの見積りでは、雨十日とみていたが先月は雨が多かったゝめに予定よりも約二十日ぐらい遅れたそうである。それは一日雨が降ると水分が蒸発するまで三日程鋪装出来ないためである。

礼拝堂の前は後から着工したので少し遅れる予定である。なお次に僕達の学校についてお尋ねしたら次のように云われた

「生徒に対する第一印象は生徒の礼儀正しい事、規則正しい事、明らかな事等でありました。これは、校長先生及び諸先生方のお力であると思っています。」

又工事中生徒がじゃましたと云うような事が無かったと云って喜こんでおられた。

（34 [redacted] 記）

冬の訪れ

ペイスボールグランドについては、「ベイスボールが出来るようにニューグランドを作らせます。勿論最初は土です。将来芝生になるでしょう。」と語られた。

野球ファンへの一大朗報である。

（34 [redacted] 記）

だんだん冬が深くなると、寒い朝、日没時刻の変化に伴なって僕達の学校生活にも少しの変化が生じて来る。この変更の主なものを挙げてみると、一つは十二月一日より登校時間が二十五分遅れ、八時四十分始りとなった。そのために昼食が十二時二十分からとなり、この時には温いお茶も出、五校時の終るのが十三時四十五分、六校時の終るのが十四時三十五分となった。日暮れも早くなったので放課後の運動時間が短縮され十五時十分までとなった。

しかし何といっても生徒の喜ぶべき事は一週間の内に五時間の日が二日出来たことと、16、28、30の特別授業が誕生した事である。

栄光名物の一つである中庭体操は、今年は冬中も続けるそうである。しかし下着を着ていてもよいのだからまあ、たいしたことはないであろう。

（38 [redacted] 記）

生徒の喜び

全校待望の的の講堂が取りあえず三百六十四個の椅子をそなえて今年のクリスマスに初使用する。一学期の初めから工事に着手して以来多少の遅延はあったが着々と整備され堂々たるものになった。淡赤色の明るい講堂は一日も早くと僕達を招いている。又この陰には校長先生始め諸先生方の偉大なる御努力と御苦労がひそんでいるのである。

僕達はこの御恩に報いる為に立派な人間になり新日本の建設に力を尽すべきではなかろうか。

又近頃着工したカーテンの取り附けは一通り終だけ完成したがその取り附には難点が有って一部を除いては未完全である。しかし学期末試験には間に合うそうである。これからは軟い光と暖い気持のよい教室で思い切り勉強出来ると生徒一同大喜び切りである。

（34 [redacted] 記）

火の用心

去る十二月四日午後二時頃、工事に使用中のコールタールが黒煙と共に燃え上がった。

何井先生のお話しによると、先生御自身は栄光会の集会中で合いにく乗馬に行かれなかったそうであるが、とにかく、始めの中は火の手がちらついて見えていたので、工事のために何かしているのかと思っていたがその中急に真黒な煙が上がったかと思うと本館の屋上にとどくばかりの焔が上がった。

その時校長先生はお話しをさっていて、ちょっとその方に目を向けられた。すると父兄が一勢にそちらを見るので遂に校長先生は斜め反対側を向いたまま話しを続けられていた。ところが、その格好がこちらから見ていると、実に不自然でおかしかったそうである。

そうこうしているうちにサイレン鳴しくアメリカの最新式車や消防自動車等が乗りつけたそうである。そして栄光会の後ではまるで何があったかわからなかったそうであるがポンプの来ている間は入り江の向うは頻次馬で大変だったそうである。

（34 [redacted] 禁記）

栄光の精神

或る日朝礼の時に、ヘルヴェク先生から、天狗様よりは鼻がしずかであるがらっきょう特有の味と香とによって生徒達の胸にぴんと来るお話があった。それは大要次のようであった。

「君達は近頃考へと、自覚がたりない様に思われるから少し話をして見たいと思います、その第一は礼儀の事、主として目上の人に対して、学校で、或いは道路でどの様な態度を取ったらよいかと云う事ですが、うちの生徒の中殊に三年生に多いが自分で教わっていない先生に礼をしない者がいると云うことです。これは栄光として決して良い事ではないのです。君達は全部栄光の生徒で、先生方は全部栄光の先生です、ですから、誰でもどの先生に向って礼をしましてもいい。又道路で目上の人と一緒に歩く時、栄光らしい歩き方をする人がこの中に何人いますか。先生やお客さまの右側を歩るいたり前にいって、通行止をしたり、列の一番端に追い詰ってしまったり、実にすごい有様です、皆は、もう少しこの

ことについて、考えましてもいい。目上の人と君達とが、よく話には必ず目上の人が相談にのるのです。今日からすぐ実行して下さい。今度試験をやりますから、わからない人は栄光から、つまみ出しますから、よくおぼえておいて下さい。

次は先生方の「アダナ」と君達の使う言葉使いなのですが、君達の使う言葉の中には、すごいものがあります。私は日本語を二十年近くも勉強していますが、この私にも、さっぱりわからない言葉があるのです。勿論世間では、そう云う言葉が普通かも知れません、しかし栄光の生徒は、そうゆう言葉を使ってはだめです。反対に君達は良い日本語を使って、世間の悪い言葉を直さなければならないのです。シュトルテ先生もおっしゃった通り栄光の生徒が良くなればだんゝ広まって行って、遂に日本全部まで良くなるのです。だから君達は話をするにももう少し考えましてもいい。又先生の「アダナ」の事ですが、私はこれが栄光の一つの特徴になっていると思うのです。先生方も皆良い先生ばかりですから、「アダナ」がきらいではないのです。それればかりか「アダナ」を嬉しく思うでしょう。しかしそれをよその人の前に用いるのはあまり愉快ではないのです。やはりそこに限度があるのです。生徒が先生の前とその他で「アダナ」を言う事は、生徒と先生との愛を示めしているのです、けれどもそこに忘れてはならない事、すなわち尊敬があります、愛と尊敬とが一致した時に、あの偉大な栄光の精神が生まれるのです。この為には、君達は良く考えなければならない。ですから私達はこの素晴大な栄光精神を作る為、又それを伝える為に努力いたしましょう。」

この様に栄光の根本精神は愛、そして尊敬である。今まで私達はこの事について考えることが少なかった様だ。これから良く反省し、よく考え、栄光の精神と真の日本建設のため努力しようではないか。

（2C [illegible] 記）

生徒の声

〝規則の悪用〟

便所内の絶対沈默は衆知の事実であるが、これを便所内で口をきかない事だけだと解釈している為か、中で騒れたり中いる友達の悪口を外から云って返答が出来ないのを喜んだり、まるで沈黙の規則を無視している。これは主として下級生に多い事であるが、細い規則をよく守ることも学校生活を高める大切な手段なのであるから、規則をもっと忠実に守ろうではないか。

〝度をこすな〟

僕は去る土曜日に腹痛の為欠席した。僕は信者なので翌日御ミサに行った。すると某君が仮病で欠席したんだろう、あの顔じゃあ仮病に違いない。秋衛を教えてくれと云って来た。勿論人をちゃらかすつもりらしいがいづれにせよ程度があると思うこの言葉は度をこしているのではないか。又その人がそれをふれ歩いたかどうか知らないが、それを聞いた人も考へてもらいたい。

〝授業中の態度〟

授業中の態度、殊に比較的悪らない先生の授業時間の態度が度を越して悪くなって来た様に思われる。

時々どこからともなく消しゴムの小片が飛んで来て僕達の頭や顔にあたる。又時にはそれが級人の生徒の間で大戦争になる事さえある。当真先生の言葉を借りるわけではないが、授業時間は神聖なものであるから、このような事はやめるべきだ。特に悪質な者は他人の消しゴムまでも平気で切り取り、それをなげつける。こんな事をすれば消しゴムは無駄になり迷惑する。栄光学生としてやめてもらいたい。

讀書

栄光の生徒にふさわしい英語の本が欲いうちに質出しをはじめる事になった。先生方に生徒も手伝って着々準備中である。その内容は、小説、歴史、社会等で一年、二年、三年、とかけるそうである。現在の本の数は六十冊ぐらいであるが、追々本をふやすとの事。校長先生は、「これによって君達が英語を読む自信をつけたらよいと思います。君達は本をよごさず、これをさず、丁寧に読なさい。」とおっしゃった。

又三年生には次のように云われていた。

「君達は勉強がいそがしかったり、又は野球をやりすぎてほとんど本を読んでいないらしいですが、大いに本を読んで一般的知識を養うようにして下さい。読書は精神的修養に大いに大切であります。読書の為に授業時間を少くしたのですから毎日読書についての君達の報告、感想などを書いてもらいたいと思います。探偵小説もレクリエイションとして大いに大切でありますが、それだけではだめです。まじめな本も沢山読んで下さい。又君達の読んだ本の中で面白いもの、皆に読ませたいものがあったら聞かせて下さい。」（3A [illegible] 記）

待たるクリスマス

「クリスマスはもうすぐだね。だけどその前には学期末の試験がひかえているんだ」と言うのは、誰しもの腹の底から出てくる言葉に違いない。

今年ももうクリスマスが近ずいてきた。今からもう先生方は去年よりも楽しいクリスマスを過そうと予定されている。この日は午後から新装成った講堂において、祝賀学芸会が行われる予定となっている。学芸会の役員として、日本劇では、本堂、森本両先生、英語劇に向井・フォブス、菊地、エベレットの四先生、舞台係に林、吉川両先生一般係にヘルベック、殿村の両先生があたられ、生徒をしぼるひまをみて、頭をひねっておられるとのこと。

僕たち生徒も先生ばかりにたよらず、楽しいクリスマスの準備にとりかかろう。去年さえ、あれほどのおもしろい学芸会を催したのだから、まして生徒の数も増した今年は、より以上のおもしろい学芸会にするのは至当である。

学芸会の向に奏しんだ後、オナスの発表があるそうである。笑い顔が泣き顔に変わると言う大事件も見られるとのこと、今から指おりかぞえて来るクリスマスを待っとしよう。なお当日の朝には、聖堂において十五名の洗礼式が行われる。

（3A [illegible] 記）

綺麗な部屋

今まで物置の様にしてあった事務室前の部屋は今回校長先生の御陰で公教要理研究室となり美しい頃やきれいな机が置かれた。なお其の隣の室も近い中に公教要理研究室にあてられるそうである。（1C [illegible] 部記）

○　○　○

十一月二十日

三年生中希望者は当真先生に引率されて鎌倉の円覚寺に出張を見学に行った。

十二月四日

栄光会が開かれ推薦図書目録も父兄各位の手に渡された。

十二月三日

ザベリオ記念日特に四百年祭にあたり学校は休みだった。

十二月八日

聖母マリアの無原罪の御孕りの祝日にあたり、放課後、ベネディクションが行われた。

十二月十二日

生徒にとって大いなる苦しみの学期末試験が始る。試験の前にはよく体と頭を休めるようにすゝめられるが、なかゝくそうはいかない。